

日吉台地下壕保存の会会報
第75号
日吉台地下壕保存の会

2005年度総会開かれる

戦後60年の今年度の総会は2005年5月28日(土)午後1:00より慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎中会議室において開かれました。

新たな戦争遺跡を作らない、戦争の実相を知るために戦争遺跡の保存をという会に投げかけられた大きな課題を少しでも解決するため、昨年度の活動報告と決算、また今年度の方針とその裏付けとなる予算について話し合われました。

総会に先立って「神奈川県の戦争遺跡～今、平和のために残したい戦争遺跡の現状は～」と題して戦争遺跡保存全国ネットワーク運営委員 新井揆博氏の講演がありました。

本土決戦の主要な舞台となろうとしていた神奈川には、日吉台だけではない多くの戦争遺跡が存在し、そして風化しようとしています。その実態が講演の中であきらかにされました。

講演の要旨及び 総会の議案書を以下に掲載いたします。



○2004年度活動報告

「私の街から戦争が見える」と題して毎年開催してきた「横浜・川崎平和のための戦争展」は2004年で12回目となりました。10月15日から23日まで慶應大学来往舎で展示、講演、座談会等を行い400名を超える来場者がありました。戦争展開催中に地下壕の見学用入り口近くで土砂崩れが起き、慶應義塾による修復工事、地下壕の安全確認、整備のために地下壕

(2)

2005年7月5日(火) 第75号

見学会は4月までの約半年間休止しました。安全管理のため慶應義塾と見学会ガイドラインを検討して(傷害保険の加入など)4月30日に定例見学会を再開できました。

戦後60年目を迎える2005年の1月、高校購買部棟東側に素掘りの地下壕が発見されました。会報74号で報告いたしましたように、慶應義塾の桜井準也助教授を中心にこの地下壕の測量調査が行われ、運営委員も内部を見学しました。大学は内部の天井が崩落しており危険なため埋め戻したいという意向です。

2004年秋頃にまとめに入ったとされる文化庁による史跡指定についてはまだ発表されず、検討中のようです。

戦争遺跡保存全国シンポジウム館山大会には14名が参加し、二つの分科会で発表しました。横浜大空襲の資料を中心に毎年開催される「平和のための戦争展 in よこはま」に今年度も展示で参加しました。

戦争遺跡保存全国ネットワーク編著の「保存版ガイド 日本の戦争遺跡」平凡社新書が2004年9月に出版されました。日吉台地下壕を含む戦争遺跡130箇所が紹介されています。

10月の「戦争展」関連フィールドワークとして11月14日に横須賀市の貝山地下壕と猿島の見学会を実施し、22名が参加しました。横須賀の戦争遺跡保存運動を進めている人たちに案内をお願いして、交流も深めました。

日吉キャンパスのBブロック地下壕部分(航空本部・軍令部)の住宅開発については、保存の会は開発に反対する住民の会と共に横浜市、開発業者と交渉を行ってきましたが、4月に施主の大槻工務店が土地を売却したため開発計画は休止状態となっています。2001年に中断されていた艦政本部地下壕の埋め戻し工事は1月~3月に埋め戻しを完了し、今回は3箇所の入り口が閉鎖されました。

日吉台地下壕保存の会

会員数 197名 3団体 (2005年5月現在)

定期総会開催 2004年5月29日

運営委員会開催 10回

会報発行 4回 71号(7/16) 72号(9/21) 73号(1/18) 74号(4/20)

地下壕見学会 18回 参加者367名 (5/22現在)

(見学会中止期間 10/20~4/29 地下壕入り口近くの崖崩れ修復工事、壕内の安全調査・工事のため)

*第8回戦争遺跡保存全国シンポジウム館山大会参加 (14名参加)

8月20~23日 会場 館山夕日海岸ホテル

分科会報告 「表現ジャンルを超えた平和への競演」岡上そう 富澤慎吾

旧海軍軍令部第三部・航空本部地下壕等の破壊をもたらすマンション建設設計画と反対運動活動報告」茂呂秀宏

*第12回横浜・川崎平和のための戦争展「日吉キャンパスにみる戦時下の青春part3」

開催 10月15日~23日 会場 慶應大学日吉キャンパス来往舎

主催 横浜・川崎平和のための戦争展実行委員会

日吉台地下壕保存の会

慶應義塾日吉学術フロンティア 一空間と人間—

展示 日吉キャンパスを中心に戦時下の青春像を明らかにする写真や実物
(学園生活 学徒出陣 戦没者の遺品他)

戦争遺跡 (日吉台地下壕 登戸研究所 蟹ヶ谷通信隊地下壕) の写真他

講演・座談会

「学徒兵と軍隊」 高野邦夫氏 (軍隊史)

「上原良司を語る」 ご遺族及びゆかりがある人々、その他

関連フィールドワーク 横須賀貝山地下壕と猿島見学 11/14 参加者 22名

日吉台地下壕見学 10/20 10/23 (崖崩れのため地上のみ)

*平和のための戦争展 in よこはま 展示参加 5/28~30 神奈川県民サポートセンター

*「日吉台地下壕展」「日吉台地下壕を語る会」 12/6~10 (すとう信彦と市民政治バンド事務所)

*「軍隊のない国コスタリカと憲法9条の集い」 共催 1/30 東京大空襲・戦災資料センター 参加者 7名

*慶應大学日吉キャンパスBブロック地下壕部分(航空本部・軍令部・東京通信隊)の開発について 開発業者が土地を売却したため休止状態

*艦政本部地下壕は2001年から中断していた埋め戻しが2005年1月~3月に完了

○2004年度 決算報告 単位 円

費目	2004年度予算	2004年度決算	備考
【収入の部】			
会 費	212,000	281,500	197名・3団体
見学会資料代	300,000	140,500	
図書等頒布	0	4,140	
寄付金等収入	0	6,307	カンパ等
繰 越 金	518,695	518,695	
計	1,030,695	951,142	
【支出の部】			
運 営 費	170,000	112,112	各種会合・打合せ等
事 務 費	80,000	72,732	事務用品費等
印 刷 費	50,000	33,270	会報・資料等
通 信 費	170,000	165,650	会報郵送費
資 料 費	50,000	11,200	書籍・資料等
頒布図書購入費	50,000	55,500	
交流・交通費	100,000	89,148	全国集会・各平和展賛助金
謝 礼	50,000	40,000	講演・学習・調査等
予 備 費	310,695	60,174	
計	1,030,695	639,786	
差引残高		311,356	

以上の通り報告します

2005年5月26日

日吉台地下壕保存の会

会計	白鶴 邦子	印
会計監査	天野 喬子	印
会計監査	新井 千代子	印

2005年度活動方針(案)

日吉台地下壕保存の会が発足して、今年で17年目にあたります。多くの会員の方々、全国保存運動に携わっている方々、日吉地域住民の方々とともに活動を行なってきました。

今年は敗戦60年の年にあたります。現在もまだ中国や韓国と靖国神社問題や慰安婦問題など意見の衝突がおきています。また、数年前に検定を通った「新しい歴史教科書」に表されるように戦争の実体をボヤカス歴史教育がまかり通り始めました。半世紀以上前のことではありますが過去のことを直視するは大切なことだと思います。その意味で戦争遺跡保存運動がますます重要なになってきたと思います。

また戦跡保存運動が全国的に拡がり、定着してきました。しかしながら、最近の鹿児島県の地下壕で子供が酸欠死した事件などから、危険防止の観点から地下壕を埋めようとする動きが見られます。それ以外にもマンション開発などによる地下壕埋設設計画などがあります。事故を防止することはもちろん大切なことですが、地下壕は歴史の「生き証人」であると同時に貴重な文化財であるという観点を訴えていく必要性があります。

日吉台地下壕は昨年台風により入口付近で土砂崩れが起き、慶應義塾による安全確認及び整備のために、約半年間見学会を中止しました。しかしこの4月から見学会を再開出来ることになりました。この運動にとって見学会が大切であることは言うまでもありません。見学会の事故等に対する安全管理を明確にしてこれからも地下壕見学会を開催していくつもりです。

これから1年はこれまでの16年間で学んだことを土台にし、皆様と一緒に協力して保存活動を展開していきたいと考えています。

そのために以下の活動方針を提案致します。

活動方針

- 日吉台地下壕内の整備・活用方法を考え、その実現に努力する。
- 日吉台地下壕見学会の内容を充実させ、より頻繁に開催する。
- 小中高生徒のための見学会を開催していく。
- 日吉台地下壕の学術調査・研究及び学習会を開催する。
- 慶應義塾・横浜市・県・国への働きかけを地域の方々と連帯して行う。
- 全国の戦争遺跡保存の会との連携を深め、保存運動を盛り上げていく。
- 日吉台地下壕平和資料館建設を目指し、実現に努力する。
- 運営委員会の活動の充実と強化をはかる。

○2005年度 予算 (案) 単位円

費目	2005年度予算	備考
【収入の部】		
会 費	220,000	
見学会資料代	250,000	
図書等頒布	0	
寄付金等収入	0	
繰 越 金	311,356	

合 計	781,356	
【支出の部】		
運 営 費	120,000	各種会合・打合せ等
事 務 費	70,000	事務用品費等
印 刷 費	30,000	会報・資料等
通 信 費	170,000	会報郵送費
資 料 費	30,000	書籍・資料等
頒布図書購入費	50,000	
交流・交通費	100,000	全国集会・各平和展賛助金等
謝 礼	30,000	講演・学習・調査等
予 備 費	181,356	
合 計	781,356	

収入の部の会費は前年度実績をもとに計上しました

2005年5月28日

日吉台地下壕保存の会
運営委員会

○ 2005年度日吉台地下壕保存の会
運営委員・会長・副会長・会計監査・顧問候補者

会 長	大西 章
副会長	新井 揆博 鈴木 順二
運営委員	岩崎 昭司 上野 美代子 大久保 隆 岡上 そう 亀岡 敦子 喜田 美登里 桜井 準也 白鶴 邦子 鈴木 高智 谷藤 基夫 常盤 義和 都倉 武之 富澤 慎吾 中沢 正子 中谷 俊吾 林 ちづ 宮本 順子 茂呂 秀宏
会計監査	熊谷 紀子 山口 園子
顧 問	永戸 多喜雄 鮫島 重俊 白井 厚 東郷 秀光

○ 講演

神奈川県の戦争遺跡

～今、平和の語り部として残したい戦争遺跡の現状は～

新 井 揆 博

はじめに

アジア太平洋戦争が終わって60年、あらためてあの戦争が問われ、戦争の実相を伝える戦争遺跡を調査・研究、そして史跡として保存し、広く市民に公開することが極めて重要になってきている。戦争遺跡が「戦争の語り部」として果たす役割は大きく、この戦争遺跡保存運動は、今日、全国の研究者と市民によつて粘り強く進められ大きな広がりを示している。

一方で、全国に数万をこえる戦争遺跡の多くは、何ら保存対策がほどこされないまま、風化・改変・消滅の危機に直面しているのが実態である。ここでは、神奈川県においてその実態はどうなつてゐるか、遺跡の存在・遺跡の特徴・消滅危機の実態などにふれ、戦争遺跡保存に向けての展望など探つてみたいとおもう。

1 文化財としての戦争遺跡

1) 現在、指定文化財・登録文化財に指定されている戦争遺跡は(2005年2月現在)

文化財となっている戦争遺跡は101件

指定文化財63件(国9、県7、市24、町20、村3)

登録有形文化財38件(国37、区1)

● 国指定 9件

札幌市琴似屯田兵村兵屋、旭川市陸軍第七師団旭川偕後者行社(旭川市彫刻美術館・重文)、弘前市陸軍第八師団偕行社(弘前女子厚生学院記念館・重文)、東京都近衛師団司令部庁舎(東京国立近代美術館工芸館)、金沢市陸軍第九師団兵器庫(石川県立歴史博物館・重文)、舞鶴市舞鶴鎮守府水道施設(重文)、広島市原爆ドーム(世界文化遺産登録)、呉市呉鎮守府司令長官官舎(入船山記念館)、善通寺市陸軍第十一師団偕行社(善通寺市立郷土館)。

● 県指定 7件

江別市野幌屯田兵第二中隊本部(屯田資料館)、江別市江別屯田大隊本部火薬庫、美唄市美唄屯田兵兵屋、根室市和田屯田兵村大隊本部被服庫、厚岸町太田屯田兵兵屋、千葉市陸軍鉄道第一連隊材料廠、犬山市明治村名古屋衛戍病院。

● 市指定 24件

札幌市新琴似屯田兵中隊本部、旭川市永山屯田兵屋(旭川市郷土博物館)、室蘭市輪西屯田兵火薬庫、土別市土別屯田兵屋、北見市野付牛屯田第四大隊第一中隊本部被服糧秣庫、稚内市大岬海軍望楼、青森市幸畠陸軍墓地、青森市歩兵第五連隊第二大隊遭難記念碑、仙台市陸軍第二師団歩兵第四連隊兵舎(仙台市歴史民俗資料館・市有形)、高崎市高崎陸軍墓地(市史跡)、館山市赤山地下壕、東大和市日立航空機立川工業変電所、上越市陸軍第十三師団師団長官舎(市有形)、瀬戸市法雲寺梵鐘、舞鶴市舞鶴海軍兵器廠魚形水雷庫(舞鶴市赤煉瓦博物館)、枚方市陸軍香里製造所煙突(市史跡)、呉市海軍工廠塔時計(市有形)、広島陸軍糧秣支廠缶詰工場(広島市郷土資料館・市重要有形)、行橋市稻童一号掩体壕、島原市からゆき塔女のドーム(アジアの慰安婦供養塔・市文化財)宇佐市城井一号掩体壕、川内市天狗鼻海軍望楼台、沖縄市美里国民学校奉安殿、忠魂碑。

● 町指定 20件

北海道:剣淵町剣淵屯田兵屋、美瑛町陸軍演習場廠舎門柱、上富良野町東中尋常高等小学校御真影奉置所。群馬県:長野原町防空監視哨(重文)。

千葉県:富浦町大房岬要塞群(弾薬庫2棟、砲台跡、観測所跡、幕末砲台跡2基、掩灯所、探照灯格納庫、発電所、火薬庫、射的場、魚雷艇発信所、12件)、夷隅町桜花四三乙型格納庫旋回盤。

三重県:紀和町外人墓地(鉱山労働英國人)。

鹿児島県:知覧町知覧飛行場給水塔。

沖縄県:南風原町陸軍病院壕。

● 村指定 3件

群馬県:東村防空監視哨、赤城村敷島小学校奉安殿(護国神社社殿)。

沖縄県:伊江村公益質屋。

● 国登録有形文化財 37件

札幌市西岡水源地取水塔(陸軍水道施設)、旭川市陸軍第七師団騎兵第七連隊覆馬場(あさげん春光整備工場)、弘前市第八師団長官舎(弘前市長公舎)、宇都宮市陸軍第六六歩兵連隊倉庫(宇都宮中央女子高校倉庫)、深谷市東京第二陸軍造兵廠深谷製造所給水塔、習志野市陸軍鉄道第二連隊正門、習志野市陸軍演習場内圍壁、横須賀市海軍軍港水道貯水池(市水道局走水水源地煉瓦造貯水池)、横須賀市海軍軍港水道淨水池(市水道局走水水源地RC造淨水池)、金沢市陸軍第九師団司令部庁舎、陸軍金沢偕行社(石川県庁舎石引分室)、半田市中島飛行機半田製作所医療倉庫(カブトビール赤煉瓦工場主棟)、(カブトビール赤煉瓦工場ハーフティンバー棟)、(カブトビール工場貯蔵庫棟)、尾張旭市旭兵器製造本社事務棟(旭サナック本館)、豊橋市陸軍第十五師団司令部庁舎(愛知大学東本館)、犬山市明治村歩兵第六連隊兵舎、名古屋市乃木倉庫、静岡県引佐町凱旋記念門、鈴鹿市北伊勢陸軍飛行場掩体、京都市外務省東方文化研究所(京都大学人文科学研究所付属漢字情報研究センター)、京都市近鉄澣川橋梁(陸軍演習用東洋一の鉄橋)、舞鶴市赤煉瓦ホフマン窯(舞鶴軍事建物用煉瓦生産遺構)、舞鶴市海軍鎮守府水源地堰堤、舞鶴海軍兵器廠予備艦兵器庫(舞鶴市政祈念館)、姫路市第十師団兵器庫(姫路市立美術館)、浜田市歩兵第二十一連隊雨覆練兵場(浜田高校体育館)、歩兵第二十一連隊雨覆練兵場(第一中学校屋内運動場)、呉市入船山記念館東郷家離れ、呉市宮原浄水場低区排水地(軍用水道)、鳴門市坂東俘虜収容所(安藤家バラック)、坂東

俘虜収容所（柿本家バラック）、善通寺市陸軍第十一師団司令部庁舎、陸軍第十一師団兵舎棟、佐世保市海軍佐世保鎮守府凱旋記念館（市民文化ホール）、佐伯市佐伯海軍航空隊掩体壕、鹿児島県市始良町山田の凱旋門。

● 区市町村登録文化財 1件

東京都板橋区圧磨機圧輪記念碑。

2) 文化財保護法の改正と戦争遺跡

文化庁は、1995年3月、「特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準の一部改正」をおこなった。この改正で、「当面、第二次世界大戦終結までの遺跡を史跡指定の対象とすること」になり、従来の「明治維新」という規定が一気に拡大した。この改正に基づいて同年5月に原爆ドームを史跡指定し、翌年96年12月、世界遺産となった。

文化庁は96年から8年計画で近代遺跡11分野（政治・経済・文化など）の遺跡の保存状況調査に入った。最初の3年間が所在調査期間で、その後所在調査にもとづき遺跡の選定、調査の実施、調査報告書の作成、保存遺跡の選定などを内容とする詳細調査を進めている。「所在調査票」には、A,B,C,3段階の評価を付して各都道府県の教育委員会が文化庁に提出した。Aランクは、「我が国の近代史を理解する上で、欠くことのできない遺跡」。Bランクは、「各地域の近代史を理解する上で特に重要な遺跡」。Cランクは「その他の遺跡」とされた。

各都道府県から文化庁に戦争遺跡「所在調査報告」の回答が544件上げられた。そのうちAランクは116件である。

3) 神奈川県の戦争遺跡「所在調査報告」と詳細調査の対象

(1) 神奈川県が文化庁に報告した戦争遺跡 33件 (02年7月1日文化庁文化財部記念物課調)

神奈川台場	横浜市神奈川区	万延元年	B
日吉台地下壕	横浜市港北区	昭和19年	A
野島地下壕	横浜市金沢区	昭和19年	B
奈良地下壕	横浜市青葉区	昭和14年	B
氷川丸	横浜市中区	昭和4年	B
陸軍第九研究所（登戸研究所）	川崎市多摩区	昭和14年	B
海軍東京通信隊蟹ヶ谷分遣隊地下壕	川崎市高津区	昭和18年	B
海軍航空隊（海軍航空技術廠）	横須賀市	昭和7年	A
旧海軍工廠造兵部本館	横須賀市	大正2年	C
旧海軍工廠造兵部本館	横須賀市	大正2年	C
旧海軍工廠造兵部本館	横須賀市	大正	C
旧海軍工廠造兵部本館	横須賀市	明治19年	C
旧海軍軍需部倉庫	横須賀市	大正10年	A
逸見波止場衛門	横須賀市	明治末	C
旧海軍測器庫	横須賀市	明治中期	C
旧横須賀鎮守府庁舎	横須賀市	大正15年	A
記念艦 三笠	横須賀市	明治33年	A
猿島砲台	横須賀市	明治	A
曲矢遠隔観測所	横須賀市	大正	C
走水第一トンネル	横須賀市	明治16年	C
走水第二トンネル	横須賀市	明治15年	C
花立保墨砲台	横須賀市	明治27年	A
三軒家砲台	横須賀市	明治29年	A
腰越保墨砲台	横須賀市	明治29年	A
観音崎砲台第一・第二火薬庫	横須賀市	明治17年	A
観音崎砲台火具庫	横須賀市	明治27年	A
観音崎北門第一・第二・第三砲台	横須賀市	明治17年	A
井上成美旧宅（海軍大将）	横須賀市	昭和9年	C
城ヶ島砲台	三浦市	昭和4年	B
剣崎砲台	三浦市	昭和2年	B

三崎砲台	三浦市	大正10年	B
相模野海軍航空隊(厚木基地)	大和市・綾瀬市	昭和18年	B
陸軍相模飛行場	愛甲郡愛川町	昭和16年	B

(2) 文化庁が詳細調査の対象に選定した神奈川県の戦争遺跡

文化庁は、02年8月9日、近代遺跡(軍事に関する遺跡)の地域別詳細調査対象物件を50件明らかにした。神奈川県に関しては下記の戦争遺跡(11件)が詳細調査の対象になった。

- * 東京湾防衛砲台群：猿島砲台、花立堡壘砲台、三軒家砲台、腰越堡壘砲台、観音崎砲台、観音崎北門第一、第二、第三砲台。(横須賀市・三浦市)
- * 日吉台地下壕(横浜市港北区)
- * 陸軍第九技術研究所(登戸研究所)(川崎市多摩区)
- * 旧横須賀鎮守府関係遺跡(横須賀市)

2 その他にも語り部の戦争遺跡はたくさんある

1) 全国に残存する特殊地下壕のうち神奈川が全国一

特殊地下壕とは、行政区域内に現に存在する旧軍隊及び軍需工場等が築造した特殊地下壕、並びに、これに準ずる特殊地下壕である。なお、「これに準ずる」とは、旧軍隊の指導により自治体又は民間が築造した特殊地下壕、並びに、民間企業又は個人が自発的に築造した特殊地下壕をさす。

(『特殊地下壕実態調査報告書』[全国版] (株) 国土開発技術研究センター 1996年)

特殊地下壕の残存市町村326(全市町村の10%)で、全国にある特殊地下壕の総数は、2805が明らかになっている。

その分布は全国にわたっているが、神奈川県が596(全体の21%)と、長崎県415(15%)が飛びぬけて多く、次いで、多い額で沖縄県(175)、千葉県(164)、鹿児島県(163)、広島県(162)、熊本県(140)、静岡県(113)、愛知県(105)、大分県(105)であり、旧軍施設及び軍需工場の多かったと思われる都道府県に存在している傾向がある。

— 神奈川県に残存する特殊地下壕 —

神奈川県内における特殊地下壕の残存数は596であり、横須賀市をはじめ、15市6町に存在している。

- ①横須賀市 192、 ②大和市 89、 ③逗子市 73、 ④鎌倉市 50、
- ⑤小田原市 32、 ⑥川崎市 31、 ⑦大磯町 29、 ⑧横浜市 25、 ⑨海老名市 13、 ⑩藤沢市 11、 ⑪茅ヶ崎市 10、 ⑫足柄市 9、 ⑬秦野市 7、 ⑭愛川町 7、
- ⑮相模原市 6、 ⑯大井町 5、 ⑰綾瀬市 2、 ⑲葉山町 2、 ⑳座間市 1、

以下 座間市・寒川町・城山町 各1、

(『特殊地下壕実態調査報告書』[全国版] (株) 国土開発技術研究センター 1996年)

2) 神奈川の戦争遺跡は多様でその数も多い

… 別紙「神奈川の戦争遺跡リスト一覧」には

3) あらためて戦争遺跡とは?

戦争遺跡とは、「近代日本の侵略戦争とその遂行過程で、戦闘や事件の加害・被害・反戦抵抗に関わつて国内外で形成され、かつ現在に残された構造物・遺構や跡地のこと」で、近代の戦争遺跡を歴史的には「戦争遺跡」と呼んでいる。現在、日本国内外の戦争遺跡は数十万を超える遺跡・遺構があると推定されている。

国内の戦争遺跡は、その内容、性格等から概略次の八種類に区分されている。

- ① 政治・行政関係 陸軍省・海軍省等の中央官衙、師団司令部・連隊本部などの地方官衙、陸軍病院、陸軍学校、研究所など。
- ② 軍事・防衛関係 要塞(堡壘・砲台)、高射砲陣地、陸海軍の飛行場、陸軍演習場、練兵場、通信所、軍港、洞窟陣地、特攻隊基地、待避壕、掩体壕(飛行機の格納庫)、試射場、監視哨(空襲に備えての敵機の監視台)など。
- ③ 生産関係 陸軍造兵廠、海軍工廠、航空機製作工場などの軍需工場、経済統制を受けた工場、地下工場など。

- ④ 戦闘地・戦場関係 沖縄諸島、硫黄島などの戦闘が行なわれた地域、空襲被災地、原爆被爆地など。
- ⑤ 住地関係 外国人強制連行労働者居住地、防空壕、捕虜収容所など。
- ⑥ 埋葬関係 陸海軍墓地、捕虜墓地、忠魂碑(戦死者記念碑)など。
- ⑦ 交通関係 軍用鉄道軌道、軍用道路など。
- ⑧ その他 航空機の墜落跡、奉安殿(天皇のご真影を祭る社)、学童疎開所、慰安所など。

(十菱駿武・菊地実編『しらべる戦争遺跡の事典』)。

4) 神奈川県の戦争遺跡の特徴は

軍事施設

神奈川県は、首都東京に隣接していることもあって、明治以来軍事上の枢要地帯が形成された。海軍は1884年に東京湾の入り口を防衛する横須賀鎮守府を置き、陸軍は91年に横須賀重砲兵連隊を置いた。三浦半島東南岸一帯は要塞化され、横須賀は世界屈指の軍港、神奈川県の軍都の代表として発展した。敗戦時における横須賀市の旧軍用財産は、土地1876万6千m²、250件と膨大な数量にのぼっていた。

横須賀臨海公園前方の半島にある軍事施設の多くは米軍基地になっているため今は入れないが、鎮守府司令部・艦船部・海軍病院の門柱・幕末から明治前期にかけて建設された3基の「ドライドック」・基地内に張り巡らされた全長二七キロにわたる地下壕などの軍事遺跡が今も残っている。不入斗には、陸軍の東京湾要塞司令部をはじめ、東京湾要塞の諸機関が置かれていたが、現在、重砲兵連隊跡には連隊記念碑がある。

追浜には、今も巨大な浦郷・貝山・夏島地下壕が存在している

猿島も大規模な戦争遺跡だ。1847年に川越藩がつくった亥ノ崎台場があり、明治に入って陸軍が1885年に完成させたフランス積み赤レンガの要塞がある。カノン砲数門の砲座跡や島の頂上部に、監視哨一棟と五ヶ所にわたる円形の高射砲座跡が残されている。

三浦半島の走水・観音崎・千代ヶ崎砲台跡には、カノン砲の砲床や砲座間の土塁、レンガ造りの地下掩蔽壕が見られる。海軍は、1937年に横須賀軍港に近い池子に弾薬庫(海軍軍需部池子倉庫)を造った。戦後は米軍基地となり、最近は米軍住宅・海軍補助施設(288万430m²)に造りかえられ殆どが破壊された。

平塚市には海軍火薬廠や相模海軍工廠化学研究部の遺跡がある。寒川の相模海軍工廠では、イペリットなどの毒ガスを製造、その貯蔵庫と推定される倉庫が現存している。

神奈川県は、昭和10年代に入って、軍の要求で座間町など2町8か村を合併させて人口4万5千人の日本最大の町相模原市を「軍都」として誕生させた。1937年には東京市ヶ谷から陸軍士官学校が移転し、学校所在地は昭和天皇により「相武台」と名付けられた。続いて臨時東京第三病院、相模原陸軍造兵廠、陸軍兵器学校、電信第一連隊、陸軍通信学校、相模原陸軍病院、陸軍機甲西部学校など軍事施設が置かれた。

陸軍士官学校跡地は、現在米軍のキャンプ座間として使用され、38年に造られた陸軍造兵廠東京工廠相模兵器製造所(相模陸軍造兵廠の前身)も米軍相模総合補給廠として使われている。

戦後、相模原市を上げての施設返還運動で部分的に順次返還され、士官学校の練兵場は相模原公園に、臨時東京第三陸軍病院は国立病院に、陸軍兵器学校は麻布大学に、相模原陸軍病院は伊勢丹デパートに、陸軍機甲整備学校は淵野辺公園等に生まれ変わっている。陸軍通信学校の建物は、現在の相模女子大の敷地に残されている。

大和市から綾瀬市にかけて、1941年に帝都防衛海軍航空基地として厚木飛行場が造られた。現在は、在日米軍厚木基地として使われている。大和市の場合も、戦時中、30万坪の海軍用地が五ヶ所に分けて確保され、高座海軍工廠の官舎や工員宿舎・住宅の敷地などにあてられた。高座海軍工廠の工員として台湾から動員された十五・六歳の少年を中心とした8千人余が大和市の寮で暮らした。東名大和トンネルの脇に善徳寺がある。小さな碑が二つ、「太平洋戦争 戦没台湾少年の慰靈碑」とその由来が残っている。座間市の芹沢公園には高座海軍工廠の「中丸地下壕」がある。

横浜市緑区奈良町から町田市にかけて、陸軍は1938年、国家総動員法を楯に強制的に農民から土地を買い上げ、76万7千m²におよぶ東京陸軍兵器補給廠田奈部隊・同填薬所という日本最大級の陸軍弾薬製造所と33ヶ所の半洞窟式弾薬貯蔵庫をつくった。その弾薬庫跡は今でも「こどもの国」(緑地公園)に多く残っている。

海軍は、東京通信隊戸塚分遣隊を現在の横浜市泉区に置いて送信任務に当らせたが、今は米軍の深谷通信所(77万3747m²)として使われている。

川崎市には、多摩区生田に1937年、謀略兵器・資材の開発を目的に設置された陸軍登戸研究所があ

った。偽札をつくっていた建物、生物化学兵器を研究開発していた鉄筋コンクリートの建物、毒物実験で犠牲になった動物の慰靈碑、その他、陸軍のマークがついた消火栓や弾薬庫などが残されている。宮前区には1942年に陸軍東部六十二部隊が置かれ、ここで召集兵を短期間に訓練して戦地に送り出した。将校集会所跡(現在川崎青少年の家)に「おばけ灯籠」とよばれる石灯籠が残っている。高津区蟹ヶ谷には、1930年に、海軍東京通信隊蟹ヶ谷分遣隊がおかれて、戦時中短波受信による傍受を行っていた。現在、市民運動によって「地下壕」は破壊されずに残った。

本土決戦体制下の遺跡・遺構

神奈川県には、アジア太平洋戦争末期、本土決戦準備の軍事施設が多く造られた。1944年9月、連合艦隊司令部は丘に上がり、横浜市港北区日吉に壮大な地下壕を造った。

藤沢市に海軍航空隊が開設されたのは44年6月で、滑走路二本と特殊地下壕を建設した。今でも県立体育センター内のグリーンハウス前には、皇族の防空壕と思われる建造物が残っている。厚木飛行場は、B29による爆撃に備え月光・雷電・零戦などが防衛にあたった。

大本営は、米軍が神奈川県相模湾から上陸する予測をたて、沿岸・内陸の決戦兵团を組織して地下壕や砲台そして特攻基地を造った。今でも横浜市金沢区野島にある巨大掩体壕は横須賀航空隊の航空機を隠すためのであった。また、三浦市油壺は特攻基地になり、ポートサービスには「海龍」を引き上げたレールが残っている。

戦争被害(空襲)・厭戦などの遺跡

神奈川県には、軍事・港湾施設や軍需産業が多かったこともあり、米軍機による爆撃もまた多く延べ50回以上に及んだ。空襲で被害を集中的に受けたのは一般民衆であり、なかでも老人や女性や子どもたちであった。

横浜市では、横浜大空襲による黄金町付近の犠牲者約600人を弔う「黄金地蔵尊」が普門院に建てられている。平沼一丁目交差点に「戦災記念碑」、その他受難者の碑が多く残されている。港北区箕輪の大聖院には戦災樹木が四本残っている。ここには、1878年の竹橋事件に連座して明治政府によって死刑になった小嶋萬助の墓がある。明治初期における日本軍隊内の差別に対する下士・兵卒の「抵抗の祈念碑」といえよう。川崎市でも大空襲で焼け落ちた川崎大師本堂の礎石が残り、田園都市線桿が谷駅近く大山街道沿いに「戦災供養地蔵」がある。こうした多くの遺跡や慰靈碑が当時の悲惨な状況を今に伝えている。

平塚市追分には空襲で焼け焦げた電柱が残り、小田原市には「小田原空襲の碑、第二次世界大戦最後の空襲」と刻まれた銅のプレートが訪れる人の目を引く。

以上の外に、綾瀬市報恩寺には「弾除觀音」と刻まれた厭戦を表わす遺跡がある。戦争たけなわの43年、住職手作りの弾除け札を配り信仰を集めめた。多い日には参詣者は1000人を超えたといわれている。

横浜港の山下公園岸壁に係留されている「氷川丸」は戦時中病院船であった。軍部は、この船に兵士や武器弾薬を輸送するよう要求したが、船長は国際法を理由に拒否した。それによってこの船は撃沈されずにする。

戦時中はミッションスクールの受難も多く、横浜英和女学院も、戦時中校名を教育勅語の一節にちなんで「成美学園」と変更せざるをえなかった。そのうえハジス校長やウルフ宣教師は日米開戦とともに「敵国人」として特高警察の監視を受け、教壇に立つことも禁止され敵国人抑留所へ送られた。

慶應義塾日吉キャンパスにいた軍令部第三部の情報参謀実松譲は、しばしば大船捕虜収容所に赴いて、捕虜から情報を入手していたという。

3 戦争遺跡の消滅危機と保存への道

消滅の状況…海軍航空技術廠(横須賀)・戦車壕(川崎新百合ヶ丘)・特殊防空壕(川崎溝口)など、急速に戦争遺跡の消滅が進んでいる

1) 海軍航空技術廠の場合(横須賀市浦郷5丁目)



旧海軍航空技術廠本庁舎建物



本庁舎が破壊された跡(04年12月25日現在)

神奈川県横須賀市浦郷5丁目に、先の15年戦争中わが国最大の航空研究開発機関「海軍航空技術廠」がおかれていた。そこでは横須賀海軍航空隊と密接な連絡をとりながら航空機やエンジンの試作・飛行実験・審査・開発に当たり、戦局の悪化に伴い、人間爆弾飛行機「桜花」を戦場に送り出した。

海軍航空技術廠本庁舎の建物は、1932年に建設されたもので、鉄筋3階、一部4階建てで敷地面積は約460平方メートルあり、北辰工業株式会社(本社・横浜市鶴見区)に戦後払い下げられ、最近まで使用されていた。

この本庁舎の建物を横須賀市は、「我が国の軍事史の中で、航空技術という特異な部分が存在したことを語ることのできる貴重な建物である」として、神奈川県を通して文化庁に、「近代遺跡所在調査票」にA評価(国史跡に相当)をくわえて提出した。文化庁もこの戦争遺跡を、全国50ヶ所掲げた詳細調査対象の一つとして選び、遅ればせながら2004年9月に本庁舎の調査に入った。貝山地下壕保存の会準備会はこの文化庁の動向を見守っていたのだ。

ところが、会社は、04年の8月の段階でこの建物を壊すという(04年8月12日付「読売新聞」)。その理由は、建物が老朽化したので解体して新しい工場を作るというのだ。文化庁の詳細調査報告書が出される前に壊すことは極めて非常識であった。そのことは、8月20日から行なわれた戦争遺跡全国シンポジウム館山大会でも報告された。

貝山地下壕保存の会準備会では、直ちに保存のための署名活動を行い、横須賀市市議会に対しては関係資料を添え陳情書を提出した。そして北辰工業株式会社の本社を訪問し訴えた。さらに10月26日、戦争遺跡保存全国ネット代表・事務局長・運営委員も加わって文化庁を訪れた。そして、主任文化財調査官磯村幸男氏に面会し、文化庁長官河合隼雄宛て「旧海軍航空技術廠保存の要請書」を提出した。

要請内容は次の3点である。

- 1 旧海軍航空技術廠本庁舎を取り壊すことなく、文化財として保存すること。
- 2 建造物と歴史資料調査をし、近代遺跡、近代化遺産の記録を作成すること。
- 3 建造物の歴史的・学術的意義にもとづき文化財(史跡、有形文化財登録記念物)として指定・登録すること。

貝山地下壕保存の会準備会では、10月28日、先に文化庁に提出した同文の「要請書」と同じく「署名簿の写し」を添えて、神奈川県教育庁教育部生涯学習文化財課学芸文化財班に提出、要請、懇談した。担当した職員は懇談の中で、横須賀市の理解と市民運動の大切さを述べていた。

11月15日、横須賀市教育委員会生涯学習部生涯学習課を訪れ担当主任と懇談し、文化庁・県教育庁に「要請書」を提出したことをつたえ、「本庁舎」を壊し始めたことに対し遺憾であることを表明するとともに、外観の一部や遺物等保存して市民が見学できるよう場所を設定し具体化するよう要請した。これに対して横須賀市は、11月29日付横須賀市長沢田秀男名で、戦争遺跡全国ネットワーク代表十菱駿武・村上有慶、貝山地下壕保存の会準備会代表原田弓子宛に正式回答をしてきた。

回答(抄)

本市としては、「旧海軍航空技術廠本庁舎」の記録を将来的に残していくために、所有者である北辰工業株式会社と協議の結果、

(1) 天皇行幸碑周辺整備

天皇行幸碑周辺を市民等が見学できるように整備し、説明板などにより旧海軍航空技術廠の記録を将来に伝える。

(2) 建物部位の保存

次の①～③を現物保存し将来に伝える。

- ① 鉄製の旗竿差
- ② 車寄せ屋根の銅版
- ③ 外観の特有のデザイン(外壁の一部を部分的に保存)

(3) 建物縮尺模型の制作

建物の縮尺模型を作り将来に伝える。

の3つの措置を講じることについて相互協力の上で実施していくことにしました。そして、同庁舎の足跡を将来に残すとともに、平和を祈念すべくシンボルとして活用していく所存です。また、本市総務部市史編さん室では本庁舎建物の建築学的な実測調査と建物構造のサンプリングを終了しております。歴史学的な調査・研究、関係者からの聴取などは継続して実施しており、記録保存については十分な成果を公表できると考えております。

以上の回答に、貝山地下壕保存の会準備会としては、本庁舎の建物を保存できなかつたことは残念であったが、戦跡保存全国ネットワークの仲間に支えられて精力的に対応でき、一定の成果に結びついたことを評価している。これからは、市民の立場に立った観点で、横須賀市が作る展示構造物を見守りつつ、どのように文化的活用するかを深めつつ必要に応じて要求をしていくようだ。

2) 艦政本部地下壕の場合（横浜市港北区日吉本町3丁目）

横浜市が地下壕崩落予防を理由に住民にたいして埋め戻し工事の説明会がもたれたのは1999年9月が最初であった。以後、日吉台地下壕保存の会では数度にわたって、①埋め戻し工事に入る前に学術調査をして、その評価のもとに工事の可否判断をすること、②「日吉台海軍艦政本部地下壕」を「史跡」に指定して保存し、戦争の真実を知るため、研究者・市民に公開して21世紀に向けて平和への研究・学習の場にしてください。という主旨のものであった。

戦争遺跡保存全国ネットワークは、2001年8月5日、第5回戦争遺跡保存全国シンポジウム神奈川県川崎大会において「日吉台海軍省艦政本部地下壕」保存についての決議をした。そして、文化庁長官、国土交通省大臣、神奈川県知事、神奈川県教育委員会、横浜市長、横浜市教育委員会宛に提出した。

- 1 行政機関が「日吉台海軍艦政本部地下壕」について、地質・歴史・考古学・土木・建築学・文化財分野の公的調査体制をとり、直ちに学術調査・研究を進めること。
- 2 行政機関は、この戦争遺跡「日吉台海軍省艦政本部地下壕」を、必要な安全対策をとったうえで壕の大部分を保存し、後世に伝えるとともに、二度と忌まわしい戦争を繰り返さないよう、多くの市民とともに戦争の真実にせまり、この戦争遺跡を平和構築に活用すること。

更に、日吉台地下壕保存の会では、2001年12月3日に1112名の署名を持って横浜市議会に、横浜市が地下壕の調査・研究・保存・活用をすすめることの請願書を提出した。

横浜市は、この間の私たちの保存運動におされて、2001年11月22日、駆け込むように「艦政本部地下壕」も慶應義塾日吉キャンパスにある連合艦隊司令部等の地下壕に加え「日吉台地下壕」の名称で、A評価を付し「近代遺跡調査票」を文化庁に提出した。

2002年度に入って横浜市は、艦政本部地下壕を含む日吉台地下壕群が8月に文化庁の近代遺跡の詳細調査対象に選定されたことによって、その後2年半も埋め戻し工事を中止せざるを得なくなつた。私たちの戦跡保存運動が行政を動かした成果といえよう。



工事を点検する横浜市職員（02年1月）



日吉台地下壕保存の会の調査で発見された遺物の一部（01年6月）

その後、文化庁は、2003年10月に「艦政本部地下壕」を含めた「日吉台地下壕」の現地調査をおこなつた。横浜市は、2004年8月、文化庁と埋め戻し工事の必要な箇所と取り扱いについて調整し、今年に入って、艦政本部地下壕の埋め戻し工事再開を決めた。文化庁の「詳細調査報告書」が出されるまえにこのような決定がなされることは極めて遺憾である。この間横浜市は、自ら学術調査をしてこなかつた。

横浜市総務局危機管理対策室は、05年2月16日に埋め戻し工事の再開に向けて住民説明会を持った。

埋め戻し量1770m³、延長270m、坑口閉塞工3ヶ所という。

教育委員会文化財課は、工事に入るに当たって日吉台地下壕群の今後の取り扱いについて、次のように述べている。

日吉台地下壕群の今後の取り扱いについて（教育委員会文化財課）

現在残されている地下壕については、早期に安全対策工事が必要な箇所等を除き＊、国の調査報告、評価、位置づけが具体化するまで、極力現状の保存に努め、国の報告結果により、国と協力して近代遺跡としての保護措置が実現されるよう努める。

- * 防災工事や民間開発等によって失われる部分及び立ち入りできなくなる部分については、事前に文化財の視点から調査を実施し、資料を記録保存する。

日吉台地下壕保存の会では、横浜市による地下壕の文化財の視点からの調査と近代遺跡としての保護措置に期待するとともに、地下壕群の文化的活用を求めて、これからも各方面に運動を進めていくことだろう。

日吉地区には、このほかに海軍省航空本部地下壕の一部が破壊の危機にあるが省略する。

3) 文化財保護法と戦争遺跡保護の道

所有者の「財産権保護」を理由に詳細調査拒否があつてはならない

実態として文化財保護より開発優先になつていなか

戦争遺跡（文化財）保護には

政府も地方公共団体も国民・住民・所有者も協力を！

文化財保護法には、文化財の扱いについて次のように記している。

第3条（政府及び地方公共団体の任務）

政府及び地方公共団体は、文化財がわが国の歴史、文化等の正しい理解のため欠くことのできないものであり、且つ将来の文化の向上発展の基礎をなすものであることを認識し、その保存が適切に行われるよう、周到の注意をもってこの法律の趣旨の徹底に努めなければならない。

第4条（国民、所有者等の心構）

一般国民は、政府及び地方公共団体がこの法律の目的を達成するために行う措置に誠実に努力しなければならない。

2 文化財の所有者その他の関係者は、文化財が貴重な国民的財産であることを自覚し、これを公共のために大切に保存するとともに、できるだけこれを公開する等その文化的活用に努めなければならない。

3 政府及び地方公共団体は、この法律の執行に当たって関係者の所有権その他の財産権を尊重しなければならない。

以上

(14)

2005年7月5日(火) 第75号

2005年7月5日(火)第75号

(15)

(16)

2005年7月5日(火) 第75号

2005年7月5日(火)第75号

(17)

○ 第9回戦争遺跡保存全国シンポジウム

敗戦、被爆60年目に、長崎で開かれます。

大会要項(案)発表される

昨年の館山大会に次いで今年も全国大会の季節がやってきました。今年は、被爆の地、長崎市で8月20日(土)~22日(月)3日間に渡って開催されます。日吉台地下壕保存の会は戦争遺跡保存全国ネットワーク設立団体のひとつとしてこの大会に当初から参加してきました。敗戦、被爆60年目にあたって、長崎で行われる意義は大変大きいと思います。この大会の地元会長として、本島等元長崎市長が記念講演をされます。戦争と平和、戦争遺跡の保存についてこの節目の年に考えるため、ぜひ多くの方々にご参加頂きたいと思います。

(以下概要)

記

1. 場所 「矢太楼」長崎市風頭町2-1 TEL095-822-8166
2. 日程 2005年8月20日(土)~21日(日) 2日間
20日(土)午前 フィールドワークA「被爆遺構めぐり」(9時~11時30分)
午後 全体集会(13時~15時)
開会セレモニー「ミニ・コンサート」長崎大学留学生(中・韓)
基調報告 地元報告
分科会 第一分科会「戦争遺跡保存運動の現状と課題」
第二分科会「保存運動の現状と課題」
第三分科会「平和博物館と今後の課題」
交流会
21日(日) 分科会(20日の継続)
昼食
全体集会 記念講演「①信教の自由は長崎から~浦上四番崩れ~
②原爆投下は正しかったか?
~戦争責任を考えずして核廃絶はできない~」
戦争遺跡保存全国ネットワーク第9回総会
22日(月) フィールドワークB-①「資料館めぐり」原爆資料館 出島資料館
ピースミュージアム 長崎平和資料館
C-②「ピース・クルーズ:端島見学」
3. 参加費 1800円 宿泊費 12600円(1日目)
交流会費 6300円
4. 申し込み手続き 締め切り 8月10日まで
申込先 ★その他詳細については日吉台地下壕保存の会運営委員までお尋ね下さい。

○第13回 平和のための戦争展

テーマ「昭和20年 戦争の記憶をひきつぐ」

期日 2005年7月16日(土)・17日(日)

会場 川崎平和館(東急東横線 元住吉駅下車 徒歩10分 平和公園内)

イベント

7月16日(土)

14:00～朗読会 朗読者 大原穣子氏・松尾敦子氏
コーディネーター 須田倫太郎氏

7月17日(日) 10:30～12:30

シンポジウム「アジアにおける戦争体験の継承(仮題)」

パネリスト 中国・韓国からの留学生多数

コーディネーター 斎藤一晴氏

13:30～15:00

記念講演

大日方純夫氏(早稲田大学教授)

「アジアとの歴史対話の意義と課題(仮題)」

展示 実物資料「陸軍登戸研究所などの未公開資料を含む」

絵画「市民が描いた戦争の記憶」

写真「神奈川県の戦争遺跡」

後援 川崎市・川崎市教育委員会

○港北区役所「ふるさとサポート」事業で 保存の会に35万円の助成

魅力ある町づくりや地域課題の解決を提案した市民団体を助成する「港北ふるさとサポート事業」の公開審査会が6月25日慶應大学来往舎で開催され、日吉台地下壕保存の会もこれに参加しました。当日は17団体が地域のための創意あふれた活動の計画を発表しあい、総額390万円の助成が決まりました。慶應大学理工学部の熊倉敬聰教授や市民活動に詳しい学識者7人が委員として審査にあたりました。

日吉台地下壕保存の会の活動はこれまで会費、出版などの収入で行われ、公費助成は受けできませんでしたので、今回が初めての公費助成となります。助成決定は15年に渡る地道な活動の成果だと思います。

保存の会が提案したのは「ピースロード ふるさと港北」として、平和学習と地域理解のために日吉台地下壕などを案内するガイドの養成講座の開催とわかりやすいガイド冊子を発行し、見学会に役立てると共に港北区内の歴史を勉強する小学6年生、中学2年生に配布するという企画です。ガイド養成口座は9月に開講予定です。10月にはこの事業の中間報告会、3月には最終報告会が行われます。保存の会の活動が新しい事業によって更なる広がりを見せることが期待されます。会員の皆様のご参加、ご協力をお願いいたします。

●活動の記録 2005年4月～7月

- 4／20 第9回運営委員会 会報74号発送（慶應高校物理教室）
 4／30 定例見学会 14名（04年10月から7ヶ月ぶりに再開しました）
 5／10 川崎・横浜平和のための戦争展実行委員会（法政第二高校）
 5／18 第10回運営委員会（慶應高校物理教室）
 5／21 平和のための戦争展 in よこはま実行委員会（神奈川県民サポートセンター）
 5／27～29 平和のための戦争展 in よこはま 戦後・被爆・横浜大空襲60年
 　　（神奈川県民サポートセンター 展示参加 来場者3000名）
 5／28 2005年度第17回定期総会（慶應大学来往舎）
 　　講演「神奈川の戦争遺跡」新井揆博（保存の会副会長） 定例見学会 28名
 6／3 地下壕見学会 33名（セカンドライクラブ）
 6／10 地下壕見学会 75名（慶應大学文化人類学クラス）
 6／11 「あなたの戦争の記憶を絵に」絵画教室（川崎市平和館）8名
 6／14 川崎・横浜平和のための戦争展実行委員会（法政第二高校）
 6／17 第1回運営委員会（慶應高校物理教室）
 6／18 定例見学会 44名
 6／20 地下壕TV取材協力（TV朝日スーパー モーニング 6／28放映）
 6／24 平和のための戦争展 in よこはま実行委員会（神奈川県民サポートセンター）
 6／25 第1回港北ふるさとサポート事業公開提案会に参加（保存の会に助成35万円）
 6／28 記者会見（川崎市記者クラブ） 7月16日～17日開催の川崎・横浜平和のための戦争展について
 7／2 地下壕見学会 47名（平和のための戦争展プレイベント）
予定
 7／5 第2回運営委員会 会報75号発送（慶應高校物理教室）
 7／9 定例見学会

☆☆地下壕見学会について☆☆

地下壕見学会は崖崩れの修復、壕内の安全点検のため7ヶ月間中止していましたが4月30日から再開いたしました。夏休み中の見学会申し込み、お問い合わせを多数頂きましたが7月11日から再度、高校バレーコート部分の崖崩れ修復工事が始まるため、8月31日まで見学会は中止となります。9月24日には定例見学会を再開する予定ですのよろしくお願ひいたします。

お問い合わせは見学窓口にお願いします。（045-562-0443 喜田）

連絡先（会計）亀岡敦子：横浜市港北区下田町5-20-15 TEL 045-561-2758

（見学会・その他）喜田美登里：港北区下田町2-1-33 TEL 045-562-0443
 ホームページ・アドレス：<http://www.geocities.com/Heartland-Hanamizuki/2402>

日吉台地下壕保存の会会報

(年会費) 一口千円以上

発行 日吉台地下壕保存の会 郵便振込口座番号 00250-2-74921
 代表 大西章 (加入者名) 日吉台地下壕保存の会
 日吉台地下壕保存の会運営委員会

